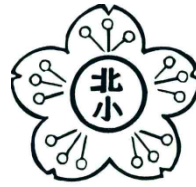


北小物語2018



平成30年11月12日
平戸市立田平北小学校
学校便りNo. (60)
校長 曾川 和則

◇◇◇ 『いい顔』『いい声』『いい心』 たゆみなく流れて清き「わが田平北小」◇◇◇

学校教育目標：「進んで学び、心豊かで、心身ともにたくましい児童の育成をめざす」

☆☆☆ 第60話：「北小から未来の科学者が・・・猶興館高校サイエンストライ！」の巻 ☆☆☆



長崎にゆかりのある下村脩（しもむら おさむ）博士が緑色蛍光タンパク質の発見と開発でノーベル賞を受賞したのは、2008年のことでした。その時から10年の歳月が流れ、今年10月、下村博士は、90歳でこの世を去りました。オワンクラゲの粘り強い研究からノーベル賞への道を歩んだ下村博士は、その生前に「どんな難しいことでも、努力すればなんとかなる。絶対にあきらめないで最後までがんばろう」という言葉を後輩の研究者たちに遺しています。地道に努力した人だからこそ言える言葉です。

11月7日（水）北小理科室では、そんな下村博士の生き方の後を追うような取組が開催されました。『猶興館高校サイエンストライ』です。小学生の子どもたちに科学に興味をもってもらおうと、地元の高校である県立猶興館高等学校理数科の生徒たちが、その学校に出かけ、興味あふれる科学の実験を行う「出前授業」です。北小5・6年生の子どもたちは高校生の指導のもと、磁性スライムの特徴を学び、その作り方を体験しました。それぞれに好きな色を付け、出来上がったスライムに大喜びするとともに、科学の神秘とその力に驚く子どもたちの姿が印象的でした。サイエンストライを通して、下村博士に続く未来の科学者がこの田平北小学校から生まれるかもしれませんね。猶興生の皆さん、本当にありがとう。



11月10日（土）、平戸文化センター大ホールのステージで4年生の子どもたちが輝きました。平戸市青少年音楽会に出演した「よかね～&協力4年生」の少年少女合唱団は、実に堂々とした態度で、会場のすべての人の心に届く歌やパフォーマンスを披露しました。みんなで心を合わせ、最後までしっかりやり遂げたこの体験は、大きな自信となって、これからの生活につながるはずです。



音楽会に参加した4年生を含め、北小全校児童が輝くステージがいよいよ今週末曜日に迫ってまいりました。

【学習発表会スローガン】
北っ子の笑顔いっぱい楽しもう！

歌あり、劇あり、群読ありで皆様を楽しい世界へと誘います。ぜひ、ご家族そろって田平北小体育館へお越しください。北っ子たちのすてきな笑顔の花が弾けます。お待ちしております。